

モード Mode Mode は語る

中野 香織

暮らしや社会の共生に貢献

前後も裏表もない服。両面着用可という服は存在するし、あえて前後逆に着るおしゃれもあるが、毎日着る下着としてデザインされたものは、ありそうでなかった。

大阪・泉州に本社を置く「HONESTIES (オネスティーズ)」が手掛ける。代表の西出喜代彦さんが2018年にクラウドファンディングで事業を開始し、20年に会社を設立。泉州の繊維産業の伝統とネットワーク、和歌山の高級生地、ホールガーメントなどの先端技術を合わせた。

アイデアが生まれたのは西出さん



一般の服の着方を学べるような図柄の工夫も施した子ども用も

が子育てに奮闘していた時。前後裏表を間違わないよう服を着せることに苦労した。最初からそんな区別が

「前後」「裏表」のない服

なければ、「間違えた」子どもにイライラするストレスもなく、大人も子どもも気分よく過ごせるのに。

だから子どもや視覚障害のある人、介護を必要とする人に対し、この服はとりわけ優しい。「間違える」壁がそもそもないからだ。根底には「障害の社会モデル」という考え方がある。たとえば階段を上れない車椅子の人に対し、従来の「障害」とらえ方では身体的特徴に原因を求め、**「障害の社会モデル」**においてはそうは見ない。スロープを作るなど車椅子でも移動できる環境が

あればそこに「障害」はない。

衣服を作る側は、デザインや機能面からアプローチすることがほとんど。「着がえる」「洗濯する」「たたむ」という衣服との日常の付き合い方から発想する例は少なかった。

デザインも優れ、品質表示タグを覆うブランドネームはユニークで(特許申請中)、縫い目や首の開き具合など配慮と技が行き届く。

社名が意味するのは、裏表のない誠実さ。裏表のない製品によって、日々の着替えで「障害」を感じさせない環境をつくることでインクルーシブな社会に貢献する。海外には類例のないコンセプトを掲げ、日本の技術力とセンスと特許を携え世界展開も目指している。